

1. 実況上の着目点

① 500hPa5700m 付近のトラフに対応し、日本の東を東北東へ進む低気圧から前線が日本の南にのびている。前線に向かう下層暖湿気の影響で、沖縄付近では大気の状態が非常に不安定となっており、発雷とメソサイクロンを検知。

② 500hPa5760～5820m 付近のトラフが華中付近を東進し、28日9時には華中付近に低気圧が発生。トラフ前面の華南付近では対流雲が発達している。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 28日は、500hPa5400m 付近のトラフに対応する低気圧が千島近海を東北東進。この低気圧と中国東北区を南東へ移動する高気圧との間で、北日本では気圧の傾きがやや大きくなり、やや強い風が吹く所がある。北日本では28日は強風に注意。

② 1項②の低気圧は、28日夜には前線を伴い華中付近へ進み、29日夜以降、前線から切り離されて山陰沖へ進みその後は衰弱する。30日朝にはこの前線上に新たな低気圧が発生して東海道沖へ進む。また、30日朝は、秋田沖付近に新たな低気圧が発生する見込み。

③ 2項②の前線や低気圧に向かって850hPa θ_e 330K 以上の下層暖湿気が流入し、南西諸島～西日本では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨や激しい雨の降る所がある。南西諸島では29日にかけて、西日本では29～30日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、竜巻などの激しい突風に注意。

④ 2項②の前線や低気圧の近傍では気圧の傾きが大きくなり、西日本～東日本では29～30日にかけて、風が強まり波が高くなる所がある見込み。強風や高波に注意。

⑤ 西日本～東日本は28日は、2項①の高気圧に覆われる。北日本～東日本では29日にかけて、850hPaの気温が平年と比べて5℃以上高い状態が続く。晴れて気温が上昇し、最高気温が30℃以上の真夏日となる所がある。暑さに慣れていない時期のため、熱中症などの健康管理に注意。また、北日本～東日本の多雪地では29日にかけて、融雪やなだれにも注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項②の低気圧や前線の位置については、初期値変わりやモデル間の予想差が大きい事に留意。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

①大雨ポテンシャル(18時から24時間)：九州南部150、九州北部120、奄美地方・沖縄地方100mm。

②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図